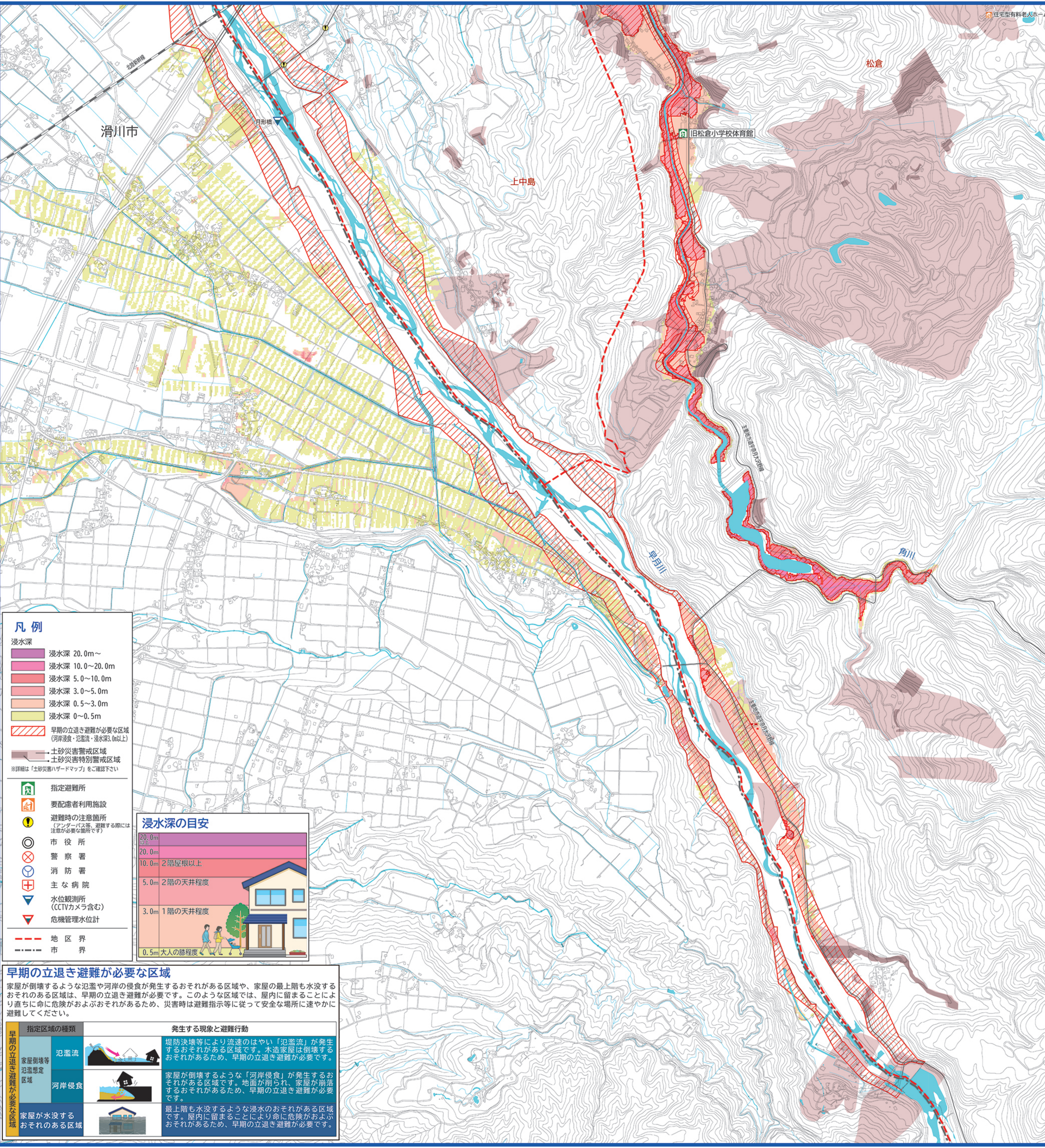
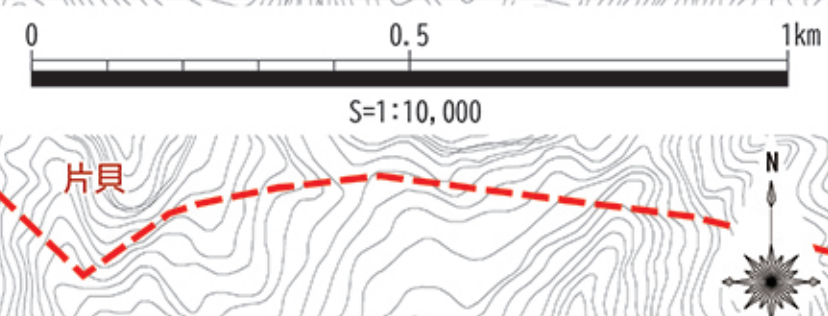




凡 例

浸水深

- 浸水深 20.0m~
- 浸水深 10.0~20.0m
- 浸水深 5.0~10.0m
- 浸水深 3.0~5.0m
- 浸水深 0.5~3.0m
- 浸水深 0~0.5m

早期の立退き避難が必要な区域
(河岸浸食・氾濫流・浸水深3.0m以上)

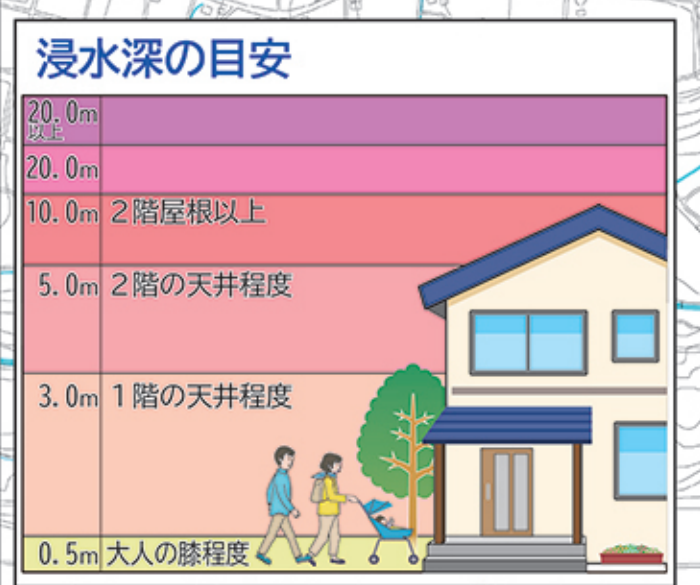
土砂災害警戒区域
土砂災害特別警戒区域

※詳細は「土砂災害ハザードマップ」をご確認ください

指定避難所

- 要配慮者利用施設
- 避難時の注意箇所
(アンダーパス等、避難する際には注意が必要箇所です)
- 市役所
- 警察署
- 消防署
- 主な病院
- 水位観測所
(CCTVカメラ含む)
- 危機管理水位計

--- 地区界
--- 市界



早期の立退き避難が必要な区域

家屋が倒壊するような氾濫や河岸の侵食が発生するおそれがある区域や、家屋の最上層も水没するおそれがある区域は、早期の立退き避難が必要です。このような区域では、屋内に留まることにより直ちに命に危険がおよぶおそれがあるため、災害時は避難指示等に従って安全な場所に速やかに避難してください。

指定区域の種類	発生する現象と避難行動
早期の立退き避難が必要な区域	家屋倒壊等氾濫想定区域
早期の立退き避難が必要な区域	河岸侵食
家屋が水没するおそれがある区域	

おおよその距離と時間を計ってみよう

マップ上で距離を測る

1円玉

およそ 2cm 地図では 200m

直線距離

マップ上でおおよその時間を測る

10円玉

およそ 2.4cm 一般の方 平均避難速度では 4分 東日本大震災の平均避難速度では 7分 身体障害者、乳幼児等 8分

歩行速度参考：避難対策推進マニュアル検討会報告書

指定避難所一覧表

○：使用可能
●：浸水した深さによっては記載の避難可能階層へ避難して下さい
※ 状況により開設されないことがあります

No	地区	避難施設名称	所在地	洪水	土砂災害
10	松倉	旧松倉小学校体育館	鹿熊11	2階以上	○

水害発生時における避難の心得

- ①正確な情報収集と早めの避難
テレビやラジオ、インターネット等で最新の気象情報や河川水位、災害情報、避難情報等を集集、確認し、危険を感じたら、早めに避難しましょう。
- ②動きやすい服装と集団での避難
長靴は水が靴の中に入ると動きにくくなるため、スニーカーなど動きやすい服装で、集団で避難しましょう。避難用具はリュックに入れ、両手は使えるようにしましょう。氾濫した水は濁っており、水路やマンホールは見えませんが、棒などで確認しながら、避難しましょう。
- ③要配慮者への避難支援
高齢者や障害者、乳幼児など避難に支援が必要な方が身近にいたら、川沿いや田んぼ沿いの道路で転落するのを防ぎ、支援してあげましょう。
- ④車での避難時の注意
車での避難中に命を落とす事例が多発している。アンダーパスで動けなくなったり、河川沿いを走行して転落したり、決壊に巻き込まれたりして、避難できなかったりする場合もあるので、車での避難は危険性があることを認識しておきましょう。
- ⑤万が一、逃げ遅れた場合
万が一、逃げ遅れた場合は、丈夫な建物の高層階に避難し、救助を待ちましょう。無理をして避難すると、かえって危険となります。

避難行動の選択肢と安全確保

1. 指定の避難所への立退き避難
浸水が始まる前に、非常持ち出し袋を持って、市からの避難指示等の発令状況や避難所の開設状況を確認してから、指定の避難所に避難しましょう。安全に通行できるか、事前に避難所までの避難経路を歩いて確認しておきましょう。
2. 安全な親戚・知人宅への立退き避難
普段から災害時の避難について相談しておきましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。
3. 安全なホテル・旅館への立退き避難
通常の宿泊料が必要となります。事前に予約・確認しましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。
4. 屋内安全確保
ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認することが必要です。
 - ① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
 - ② 浸水深より居室は高い
 - ③ 水がひくまで我慢でき、水・食料などの備えが十分

車避難の危険性

① 車での避難には様々な危険性があります！

- ・ 浸水しているアンダーパスで動けなくなる
- ・ 川沿いや田んぼ沿いの道路で転落する
- ・ 決壊が発生し、避難に時間がかかる

② 車が浸水するとどうなる？
水深がドアの高さの半分を超えると内側からほぼ開けられなくなる
タイヤが水没
車体が浮いて流される
マフラーから浸水するとエンジン停止の可能性

③ もしも冠水した道路で動けなくなったら…
緊急脱出用ハンマーを車に載せておきましょう。

④ もしも車内に水が入ってきたら…
車内と車外の水位の差が小さくなってから、大きく息を吸い込み足などに力を込めて押し開け、一気に脱出を図りましょう。

参考：JAFホームページ